

令和8年9月1日

長与町議会 議長 安藤 克彦 様

議会広報広聴常任委員会
委員長 安部 都

委員会調査報告書

令和8年6月11日派遣承認された調査事件について、会議規則第77条の規定により報告します。

1 調査日 令和8年7月27日（月）～28日（火）

2 調査場所および調査事件（所管事務調査）

日 時	場 所	目 的
7月27日（月） 13時30分～15時00分	福岡県志免町	議会活動に係る広報及び広聴活動について
7月28日（火） 10時00分～11時30分	福岡県春日市	

3 派遣委員

安部 都、岡田 義晴、堀 真、八木 亮三、松林 敏、西田 健、浦川 圭一

4. 概要

{志免町の概要}

人口 46,203人 21,436世帯（令和8年4月1日） 面積 8.7平方km

令和8年度一般会計予算：190億6,800万円 議員定数 14人 議長 丸山 卓嗣

志免町は、福岡県の西部、福岡から東へ8km、糟屋郡の南西部に位置します。総面積は、8.7平方kmとコンパクトな町です。町内には、須恵町、宇美町、大野城市と接する南東部の丘陵地、福岡空港を挟み福岡市と接する南西部の丘陵地、福岡市、糟屋郡へと広がる平坦地からなっています。

常任委員会が、総務文教常任委員会（7人）、厚生建設常任委員会（7人）、予算常任委員会（13人）議会広報常任委員会（6人以上）→令和5年12月定例会から、8人に拡充、議会運営委員会（6人）で構成されています。

{春日市の概要}

人口 111,606人 52,010世帯（令和8年4月1日） 面積 14.15平方km

7,887人/平方km 市制施行 昭和47年4月

令和8年度一般会計予算：462億15,803千円 議員定数 20人 議長 中原 智昭

春日市は、「弥生銀座」と呼ばれ、弥生時代の遺跡が市内各地に点在している。又、江戸時代に数多くの溜池が街に潤いを与える自然環境に恵まれ、福岡市の南側に隣接する住宅都市です。福岡県下最小の市で、九州地方で 1 番目に人口密度が高い地域です。

明治 22 年 4 月 5 村が合併し、人口 2,389 人の純農村地域でした。昭和 28 年 1 月町制施行により春日町と改称し、昭和 47 年 4 月に 3 万人市制特例法により、市制施行され、春日市と改称されました。

同年 6 月に返還された米軍基地跡地には、県営春日公園や春日高校、九州大学大学院、優良な住宅地などが整備されました。「健康と文化の公園都市」の創造を標榜し、令和 2 年度に、「住みよさ実感都市かすが」を目指す第 6 次総合計画を定め現在に至っています。

常任委員会として、総務企画委員会（8 人）、市民共生委員会（6 人）、こども文教委員会（6 人）があり、特別委員会として、広報特別委員会、予算審査特別委員会、決算審査特別委員会、補正予算審査特別委員会、議会運営委員会（7 人）等があります。議会報告会は、議会活動の報告と市民との意見交換会を実施し、全議員で開催しているとのことです。令和 7 年度は、議会報告会の開催はなかったが、公聴活動を行ったとのことです。

5. 所 見

【委員長 安部 都】

① 福岡県志免町議会

【① 編集方針】

志免町議会の議会広報紙の編集方針や申し合わせ等においては、「読みやすく、わかりやすい。なによりも手にとってもらえる」ことを重視していた。そのことがはっきり分かることが、議会だよりの表紙に、子どもたちの可愛い笑顔や住民が常に登場していることだ。これなら親御さんも絶対我が子が掲載している議会だよりに手が伸びることは間違いないだろう。113 号や 115 号の 2P から 3P で、子どもたちや住民の写真をふんだんに用いて視点・論点を浮き彫りにしている点は素晴らしい。高校生と議場にて、意見交換会を開催しているなど、本町も見習いたい点である。本町と特に異なった点は、議会新体制が誕生した際、「議員の紹介」文面を臨時号として発行したり、新年を迎えた際、1 月 1 日に新春号として議員全員の「新年のご挨拶」として特別に発行していることだ。こんな頻繁に発行回数を増やすと住民の目に留まるのは間違いないだろう。素晴らしい取り組みだと思う。

【② 町の広報と差別化】

議案審査で行われた質問と答弁の内容を詳細に掲載し、町の広報紙と差別化を図っていることだ。特別委員会を設置し、調査研究を行い、委員会からの要請や提言なども写真入りで掲載している。例えば、水泳授業を民間委託する提言書を提出するなど盛んに提言・決議を掲載している。議会全体、委員会で積極的に政策提言を決議し要請していることは、今後も本町でも積極的に推進していかなければならないと思う。

【③ 企画デザイン・編集・制作・役割分担・印刷業者との調整】

志免町公式キャラクター「シメツチャ」を至る所に使って、かわいらしくデザインする工夫をしていた。子どもたちが手に取りたくするような、親しみやすい議会だよりのデザインであった。決算も分かりやすく家計簿方式にデザインされ、住民にも一目で分かるように工夫されているのが特徴的であった。

文字は、UD フォントを使用し、誰もが読みやすい文面にされているところは、やさしい心遣いである。

【④ 写真記事、イラストの取り扱い】

各委員会に所属する広報委員が記事を作成し、掲載写真は、議員自ら撮影したり、執行部や学校、団体からの写真を提供してもらっている。イラストは、許可を必要とするものはその都度許可を取り、フリーイラストは印刷業者から提供してもらっている。人物掲載時は、特に注意して了承を得ているなど、殆ど本町との取り扱いに違いはなかった。本町では、写真掲載時には、本人の写真掲載承諾書をもらい、昨年度より更に慎重に実施している。

【⑤ 総括】

議会広報常任委員会の体制を令和 5 年 12 月定例会から定数 6 人から 8 人に拡充している点に目が止まった。理由としては、SNS での議会情報の発信に力を入れて行くためと、1 期目の議員に経験を積ませるためとの理由だった。視察当日も、1 期目と 2 期目の議員さんに対応して頂いた。議員の経験を積み更なる議会の資質向上に向けての取り組みだと拝察した。議会活動、委員会の開催状況等の発信は、担当を決めてそれぞれが責任を持って発信しているとのことであった。更に令和 6 年 2 月に志免町議会ソーシャルネットワークサービス運用要綱を策定し、先進地事例に基づきルール作りを行っていたのは良かった。インスタグラム・Facebook・YouTube・ホームページと SNS を駆使し、親子 De 議会体験や高校生と意見交換の取り組みなど、政治に関心を持ってもらうため、議会や議員の仕事を身近に感じてもらうために議会自らが率先して実行に移している点は、本町も見習う点ばかりである。更に充実した、町民に手に取ってもらえる行動と議会だより作成に向け進むことが出来るよう精進したい。

② 福岡県春日市議会

春日市議会の広報特別委員会の西村委員長に当日、中原議長、広報委員と共に説明を行って頂いた。広報特別委員会は議会だより策定担当で、僅か議長を含む委員 4 人からなる。自ら議長が名乗り出て広報委員となったのは、本当に素晴らしいとしか言いようがない。委員会は定例会中 2 回、定例会後 2 回の計 4 回と委員会を行っていた。公聴委員会は、議会運営委員会に組み込まれていた。

活動内容は、議会だよりの編集、SNS の編集（市のアカウント使用）・送信・議会 HP、その他議会活動の取材等行っている。議会活動の取材として、自ら街頭に出ての街頭インタビューや小中学校へ訪問し、議会活動を行っている。「分かりやすく、親しみある議会」を目指し、議会だよりのリニューアルを行っている。又、スピード感ある広報を目指すため SNS を活用し、タイムリーに発信しているのは、本町議会もお手本にするべき SNS 活用だ。表紙も市民から募集し、1 位以外は、SNS にて紹介している。無駄にならず応募された方も期待される議会だよりとなっている。

又、2～3 ページは特集ページを設け年間でテーマを決定し、「いってみた。きいてみた」のコーナーで市民の目を引く工夫をされている。議会だよりの奥まで市民の目を誘う紙面構成で、見開きで Z 読みの掲載の流れを意識されていた。一部の人だけが読む議会だよりでなく、関心のない人も見てもらうため、市議会へ関心を持ってもらうための工夫があらゆるページに見受けられた。特に本町も見習わなければならない。動画制作・編集は、Canva、CapCat、文章は ChatGPT を使用し読みやすい文章を作成していた。議会紹介動画作成では、議員の人柄が伝わる議会を目指していた。本町もすぐに実行に移すことが出来る内容もあり、今後の参考にさせて頂きたい。有益な時間をありがとうございました。

【副委員長 岡田 義晴】

今回の視察は、令和8年7月27日から28日までの2日間で視察先は福岡県志免町と春日市の2自治体であった。視察1日目の志免町では、議会活動に係る広報及び広聴活動について意見交換が出来た。まず議会広報紙の編集方針と申し合わせ事項の説明があり、議員の賛成・反対を掲載する場合は、賛成（赤文字）・反対（青文字）で表記し、ハッキリ見やすく、誰が賛成、反対したかが分かりやすい工夫をしている。また、名前の掲載は議席番号が大きい議員から載せるとの申し合わせをしている。企画デザインでは、公式キャラクター「シメッチャ」を随所にあしらひ、目を引く工夫が見られる。文字もUDフォントを使用し、誰もが見やすい配慮もある。編集についても見出しを見て内容がわかるよう工夫が施されている。尚、一般質問の写真は、質問者が提供すること。また、町民主催のイベント等を掲載し、主催者に原稿を依頼し、住民参画は、今後取り組む準備をしているとのこと。

議会広報常任委員会の委員を6名から8名に増やした理由としてSNSでの議会情報の発信に力を入れると共に1期目の議員にも経験を積ませるとのこと。大変有意義なことと感じた。さらに「親子De議会体験」や「高校生と意見交換」の取り組みについての説明があったが、保護者、児童、生徒への主権者教育の一環として、これらの取り組みは、本町でも取り入れて大いに取り組むべき内容だと感じた。また、本町議会からの質問事項にも丁寧な回答があった。主なものとして、「町議と語る」の告知動画やインスタグラム開設などは誰が行っているかの質問に、議長を中心とした議員4～5名でプロジェクトチームを毎回立ち上げ、素案を作り、議会運営委員会に報告し、その後委員会で全議員に説明し進めているとの回答でした。インスタグラムや議会だよりのデザインやレイアウトは誰が行っているのかの質問には、インスタグラムは各担当委員が、議会だよりは、委員会でイメージを伝え、委託業者が行っているとの回答でした。これらの斬新な取り組みは、大いに参考になり、明日からでも取り組めるものがあると感じた。

視察2日目の春日市では、議会だよりの編集、SNSの編集・送信、議会HP等について意見交換が出来た。広報特別委員会、各常任委員会から1名＋議長で4名体制。議長が委員に入っているのは珍しいのではと思う。そして、市議会を「分かりやすく親しみある議会」とするために議会だよりをリニューアル、そしてSNSを活用し、タイムリーでスピード感のある広報を目指している。紙面構成では、表紙を「あなたの写真が表紙に！」と市民からの公募、コンテスト形式で採用し、1位以外は、SNSで紹介するなどの気配りも見せている。一般質問の1人のスペースは、1／4ページで問い答え合わせて200字以内としている。また、SNSお知らせは、会派ごとに写真を掲載し、編集後記を「いろいろ」とし、広報特別委員会4人の輪番制で、季節感をいれ、感じたことを掲載するようにしている。

また、本町議会からの質問事項にも丁寧に回答があった。主なものとして、「いってみた きいてみた」の取材などは、誰がどのようにイベントや対象者を選定し、どのような目的で行っているのかの質問に対して、委員会で年間のテーマを先に決め、準備している。見開きで、Z読みの掲載の流れを意識しているとの回答であった。さらにインスタグラムを投稿する際、誰が動画の作成、編集を行っているのか。また、その経緯、効果やフェイスブックとの使い分けがあればとの質問に対し、動画制作・編集は、広報特別委員で行っている。月ごとの計画案をざっくり作成し、FBもインスタグラムと同じ投稿にしているとの回答でした。そのほかにも議会YouTubeもチャンネル登録数378（7/28現在）、配信回数699本、議会紹介動画「春日市議会は変わります」再生回数437回（7/28現在）と積極的に議会広報を展開している。このような先進的取組は、大いに参考になり、1ずつでも取り入れて本町の広報活動の一助

にしていければ、町民サービスに繋がっていくものと考えて。まずは、出来るものから積極的に取り組んでいきたい。

【委員 堀 真】

① 福岡県志免町議会

志免町議会では、議会だよりやアンケート、「志免町議と語る会」、意見交換会などを行っていました。議会から情報を伝えるだけでなく、住民の声を直接聞く機会をつくっている点が特徴でした。話を聞いて終わりではなく、その内容を議会だよりでも紹介するなど、「伝える」と「聞く」がつながっていました。

② 福岡県春日市議会

春日市議会では、「親しみある議会」「分かりやすい議会」を目指し、議会だよりや SNS、動画を使って議会の情報を発信していました。議会だよりでは、議案や一般質問だけでなく、市民から表紙の写真を募集したり、議員や市民を紹介したりするなど、議会を身近に感じてもらう工夫がされていました。

特に印象に残ったのは動画です。若い議員が中心となって動画を作っており、見ていて「これは簡単には真似できないな」と思うほど完成度の高いものでした。ただ、完成度が高いからといって「うちは無理」で終わらせるのではなく、まずはできるところから取り入れたいです。いきなり映画監督を目指すのではなく、まずは「議会版 YouTuber の見習い」くらいから始める気持ちで、動画による発信を考えたいと思いました。

また、Canva や CapCut、ChatGPT など活用しており、新しい道具を上手に使いながら、分かりやすい発信につなげていました。

③ 総括

今回の視察を通して、議会広報は「正しい情報を載せれば終わり」ではなく、「どうすれば読んでもらえるか」まで考えることが大切だと感じました。料理に例えるなら、正しい情報が材料だとすれば、議会だよりや SNS は盛り付けです。材料が良くても、盛り付けが地味だと手を伸ばしてもらえません。本町でも、議会だよりの見せ方を工夫するとともに、SNS や動画などを活用し、町民に「ちょっと見てみよう」と思ってもらえる広報を目指したいです。そして、アンケートや意見交換会などで町民の声を聞き、「伝える→聞く→議会に生かす→また伝える」という流れを作っていきたいです。

【委員 八木 亮三】

志免町議会は定数 14 で、議会広報は議会広報常任委員会が所管していますが「SNS での発信に力を入れるため」と「1 期目議員に経験を積ませるため」の二つの理由から同委員会の定数を令和 5 年 12 月より「6 人以上」と規定し、現在は 8 人で構成しているという点が非常にユニークで、その点だけでも、議会にとって広報活動が極めて重要だという認識であることがうかがえます。

実際に、議会だよりは全体的にやさしい色調のフルカラーで、写真・イラスト、町のイメージキャラクターを多用することで町民に分かりやすく読みやすい紙面づくりを意識していることが感じられるのに加え、「町長と議長の対談」や「議員が参加したイベント」などで議会と町、議会と町民が共に歩んでい

く姿勢を打ち出すなど、参考とすべき点が様々にありました。

また、議会改革推進特別委員会を中心とした高校生との議場での意見交換会や町民とのワークショップ形式での町議と語る会などを実施、それらを特集記事として議会だよりの冒頭に持って来るなど、議会一丸で「開かれた議会」「議会の見える化」に取り組んでいることも印象的でした。

本町議会においては、議会広報広聴常任委員会が常任委員会であるにも関わらず委員長が議会運営委員会の委員にならないようになっていますが、議会改革をはじめとする議運の協議・決定事項は広報によって初めて町民の知るところとなるものであり、本来的に議会運営と広報広聴機能は連携すべきだと考えますので、今後の委員会編成についても、志免町議会の在り方は非常に参考になるものと感じました。

志免町議会の議会広報のもう一つの大きな特徴は令和6年からのInstagramの活用で、各議員の一般質問の概要や委員会活動、議員参加イベントの紹介など、そのクオリティ・更新頻度ともに非常に高いものでした。Instagramの運用にあたっては「志免町議会ソーシャルネットワークサービス運用要綱」を定め、遵守事項などを詳細に規定することで公平性などを担保しており、本町でも準用できるのではないかと思います。

春日市議会は定数20で、議会広報は広報特別委員会が所管しています。かつて議会報編集特別委員会だったものを令和元年度に広報広聴委員会へ、さらに5年度に広報特別委員会へと改編していますが、議員の半数以上が広報委員を務める志免町と対照的に委員は4人、しかもそのうち一人は議長という、まさに少数精鋭となっています。

この委員会編成は現議長である中原氏が議長に就任した令和5年5月からで、少数ながら議長が加わっていることで委員会の決定＝議長の決裁事項となるため、新しい取り組みなどを速いスピードで導入・実行できる非常に画期的な編成だと思います。

議会にとって議会広報は極めて重要であるとする同議長のもとで議会だよりも2度のリニューアルを行っており、その都度確実に分かりやすさ・親しみやすさが向上しているようでした。また、議長肝いりとして同年6月よりInstagramを開設、こちらも動画編集技術に長けた若手議員の手によって、一般質問を行う議員が自分の質問の概要を10秒で紹介する動画やその動画作成時のNG集など、議会・議員へ興味を持ってもらおうという努力が感じられるものとなっています。

動画編集が当該若手議員一人の技術に依るものであるため、同議員が広報委員でなくなった場合などにそのクオリティを維持できるかなどの課題はあるようですが、先のことの心配よりもまず今現在できることをやるという姿勢はスピード感の表れでもあり、見習う必要があると思います。

今回視察した2市町に共通することとしては、議長の明確な議会広報へのビジョンとリーダーシップ、広報委員以外の議員の理解と協力、協調性があることで、本町議会も、真に議会改革を目指すのであれば、議会運営委員会と広報広聴委員会がその理念と目標を共有しチームとなる姿勢が必要であると思いました。

視察の成果として、まずは現広報広聴委員会の任期中にインスタは直ちに開設・運用すること、そして両市町議会が実施していた「新年あいさつ号」の発行などで、常に住民に議会・議員の存在を知らせ身近に感じてもらう取り組みをいずれ行うべきだと思いますので、今後協議していきます。

【委員 松林 敏】

① 福岡県志免町議会

今回の視察は、議会として facebook、インスタグラム（以降 SNS）を活用した情報発信を行なっている先進自治体である志免町と春日市への視察を実施しました。

志免町では SNS の更新を頻繁に行なっており、定例議会の一般質問も、一人一人情報を投稿していました。委員会などの様子も投稿されており、議員がどのような活動を行なっているのかが住民にわかるようになっていると感じました。

SNS への投稿は担当の委員が一人で行なっているようで、個人的にはリスクがあるのでは無いかと感じましたが、担当者は客観的な記事の作成に努め、私的な感情は掲載しないことで、炎上のリスクを回避し、中立性を確保しているということのようでした。

投稿の中で議会紹介と、議員紹介の2つの動画が、高いレベルの品質で制作されていたので説明を求めたところ、2本とも業者に制作してもらっていて、議会紹介は議会事務局の予算で、議員紹介の動画は、議員みんなでお金を出しあったそうです。

② 福岡県春日市議会

春日市では公聴については議会運営委員会が役割を担っていて、広報委員会は4人という少数精鋭で構成されていました。中でも議長が広報委員会に参加していることが特徴的だと感じました。

SNS の記事は主に委員長が作り、動画は若い委員が制作していました。委員が頻繁に記事を書き、動画を編集していることから、頻繁に投稿がなされていて、動画の本数も多く、見応えがあるものになっていました。

SNS への投稿の権限は委員長にあるということでしたが、投稿して良いかどうかの判断は委員4人と議会事務局の課長の5人全員のチェックが必要となっていました。本町でも SNS による情報発信を広報委員会として積極的に始めるとなった時には、複数人でのチェックを行う体制を考えていくべきだと思います。

春日市では印刷業者と紙面構成を考えていく中で、右開きの冊子を左開きに変更したそうです。本町では町の広報誌は左開きで、議会だよりは右開きとなっているので、揃えるという意義からも記事を横書きで作成し、左開きとすることを検討する必要性を考えました。

【委員 西田 健】

① 福岡県志免町議会

<議会だよりについて>

簡単な「議会だより」作成マニュアルを作成している。本件マニュアルの意図は、委員長、副委員長（広報委員会）や委員構成に変更が生じた場合、または事故や病気等で製作期間に欠員が生じた場合など、どの委員でも対応できるように基本的な事項をまとめている。

本町においても参考としたい。

・主な編集方針、申し合わせ等

（１） 読みやすく、わかりやすい。手にとってもらえる。

- (2) 町の広報と差別化。
- (3) 見出しをみて内容がわかるように工夫する。

<感想>

全体的に文字が多くもう少し写真等が欲しいと感じた。(個人的感想)
内容的には、よくまとまっており参考となった。

② 福岡県春日市議会

<議会だよりについて>

市議会を「わかりやすく、親しみある議会」を目指すため議会だよりのリニューアルに挑戦した。

・主な編集内容

- (1) 表紙は、市民へ写真を募集し決定している。
- (2) 毎回、特集記事を企画している。
- (3) 一般質問の記事が短い。(1 ページに4名ずつ記載) 見やすいと感じた。

<感想>

一般的に見やすいと感じた。予算・決算審査内容についても見やすいと感じた。
本町でも採用を考えても良いのでは・・・と感じた。

【委員 浦川 圭一】

① 福岡県志免町議会

志免町は福岡市博多区の東部に隣接する、人口46,203人、行政面積 8.7 ㎢の町で、本町と比較すると、人口規模で約8千人多く、面積が約 3 分の1 で県庁所在地に隣接し、都市化が進んだコンパクトな町だとの印象を受けました、予算規模も約190億円とのことで本町とほぼ同じ規模であると認識した、議会については、定数14人で運営されているとのことで、本町より2名少ない定数であった。

議会だよりについては、本町のものとよく似ているなど感じたところです、編集にあたって一部作業を印刷業者に依頼しているとのことで、紙面づくりに有効であれば本町でも一考の余地ありかなと思った。

インスタグラムにおける情報発信については、議会活動、委員会の開催状況など担当を決めて、責任をもって発信しているとのことであった。参考にできる取り組みと思った。

② 福岡県春日市議会

春日市は福岡市の南側に隣接する、人口111,606人、行政面積 14.15 ㎢で九州では一番人口密度が高い自治体とのことです。本町との比較では、人口が約3倍で、面積が約2分の1、予算規模が約462億円で本町の約 2.5 倍という大都市に隣接したコンパクトな自治体であるとの印象を受けた、議員数についても20人ということで、人口、予算規模などから考えても非常に少ない議員数で頑張っておられるなど思った。

広報誌については、議会だよりの写真をきれいだなと思っていたら、市民からの公募の中から選んで載せているとのことであった、いい取り組みだと思った。

一般質問に関する記事が、1 ページに4人分の記事がコンパクトにまとめられていて、見やすいが、議

員の真意が伝えられるのかなとの思いもあった、本町は1人1ページで質疑の内容を詳しく示すようにしているが、それはそれで良いのかなとも思った。

Instagramを用いた議会活動の発信などにも相当力を入れられていると感じた。

また、本会議の会議録について、音声データを事業者に渡し翻訳から製本までを委託して次回定例会までに作成するとのことであった。本町においては会議録の作成までの時間がかかりかかっていることから、参考にできないものかと思った。